



HOUYUKAI

Action by Glocalization

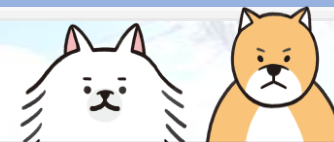
介護現場におけるICT・IOT活用による 生産性向上の取り組み

社会福祉法人 奉優会
特別養護老人ホーム弦巻の家 藤巻 佳祐

弦巻の家 運営ビジョンのご紹介

つながる つるまき

-思いをつなぎ、次世代の福祉を創る-



弦巻の家 価値作り

「ご入居者、家族、スタッフ、弦巻の家に関わる全ての人の「**幸せ**」のために」
施設や組織のミッションとビジョンを職員で共有します。
職場の価値観や目標に共感できる環境を作ります。

品質アップ

- ICT・IOT促進
- ユニットケアの展開
- 画期的機能訓練
- SS万満足度
- 新たな取り組み

採用・育成・定着

- 研修体制の確率
- 介護職の魅力・やりがい
- 資格取得支援
- キャリアアップ

地域とのつながり

- ボランティア受入れ促進
- GWSカフェの活用
- イベント開催
- カフェのアップデート

ハード活かした 働きやすい環境

- まだら戦略
- オフィスピカピカ戦略
- コンセプト最大化

安定した運営

- 月稼働率目標98%
- 入院率2.5%以下
- 営業、広報
- 費用管理

「弦巻の家プロモーション戦略」

- オンラインプレゼンスの強化 ・口コミとレビューの活用 ・地域イベントへの参加
- パンフレットやニュースレターのアップデート ・デジタルマーケティング
- 施設見学ツアー(外国企業含む) ・メディア露出(法人広報担当との連携)
- 弦巻プロモーション動画の制作

世界規模で目立て弦巻!! 介護福祉プレゼンス向上戦略 福祉の**魅**力×**や**りがい×**誇**り

トイレセンサー「サニタリーシステム」導入事例

排泄ケア支援センサー「サニタリー利用記録システム」導入

トイレ



個室トイレ



排泄検知ユニット
着座の状態・排泄物の状態を検知



制御ボックス
トイレの利用状況を収集
収集データをAIエンジンで
検知/分析



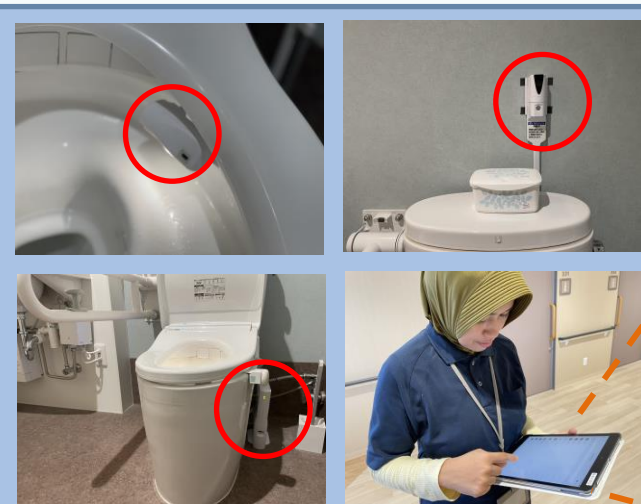
個人識別センサ
複数の利用者を自動で識別し
利用者ごとに排泄情報を管理



共用トイレ



POINT



東京都次世代介護機器補助金を活用し6台購入

- ・利用者のプライバシーを守りながら介護職員のトイレに関わる業務負担を軽減
- ・センサーが利用者の排泄を自動で検知、通知し、効率的な利用者の見守りと排泄記録の自動化を行う
- ・システム適用による介護負担軽減と健康管理

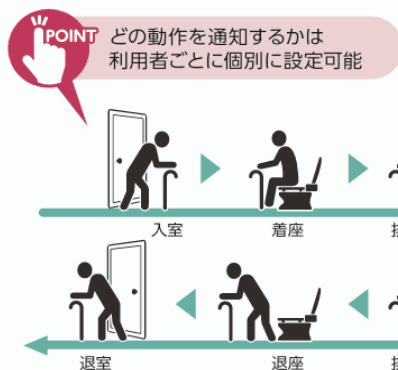
■ 排泄ケアにおける課題

- 特に排泄自立者の記録漏れ、把握が困難
- 便秘や失禁の増加
- 過剰な下剤投与
- 尿路感染症などによる入院

■ 導入で期待できる効果

- 利用者の健康状態の把握
- ICT活用による介護職の負担軽減
- プライバシーを尊重した自立支援

入室から退室までのトイレの利用状況を6つのタイミングで通知。



排便性状はブリストルスケールに準拠

非常に硬い (約100時間)	1 タイプ コロコロ便	硬く固くコロコロ便 (ワサワサ便のような便)
排便性状の 経過時間	2 タイプ 硬い便	硬く固まった便
	3 タイプ やや硬い便	硬く固まらずにひび割れている便
	4 タイプ 普通便	適度な柔らかさの便
	5 タイプ やや柔らかい便	水分が多く非常に柔らかい便
	6 タイプ 泥状便	形のない泥のような便
	7 タイプ 水様便	水のような便
	非常に柔らかい (約10時間)	

ユニットに1名は在籍している「排泄自立者」特に自立度の高いSSユニットで好事例を展開できると確信！

トイレセンサー「サニタリーシステム」導入事例

対象者

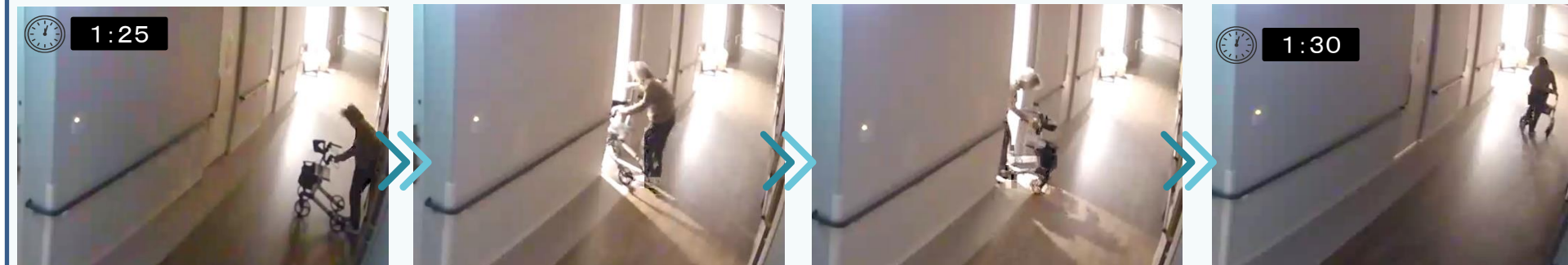
氏名：T様（女性）
 介護度：要介護3
 既往歴：アルツハイマー型認知症 高血圧症 結腸癌
 ADL：歩行可、シルバーカー。トイレ自立、失禁。

T様の課題

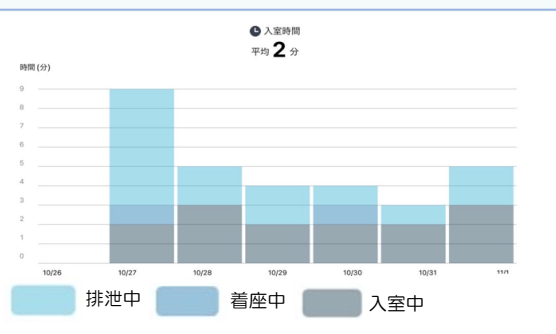
- 1.認知症による排便有無の把握が困難
- 2.度重なる汚染による尊厳、QOLの低下
- 3.排泄失敗への不安による活動範囲の制限
- 4.排泄のタイミングが読めない事での健康リスク

家族の願い

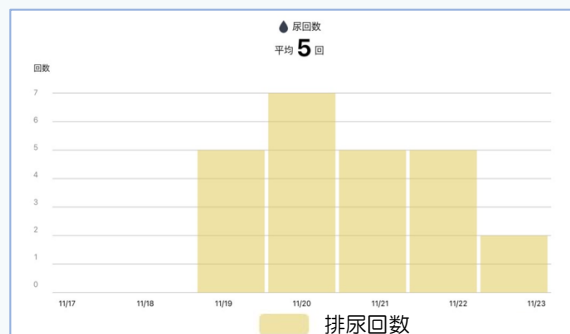
- 1.自宅でも排泄の心配なく快適に過ごしてほしい
- 2.便秘が心配で下剤投与しているが、減らしたい
- 3.排泄の負担が軽減できれば家族も安心する



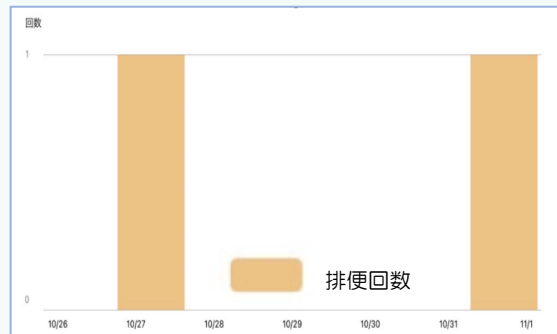
各場面所用時間



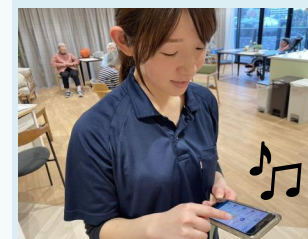
排尿回数



排便回数



期待通りの効果

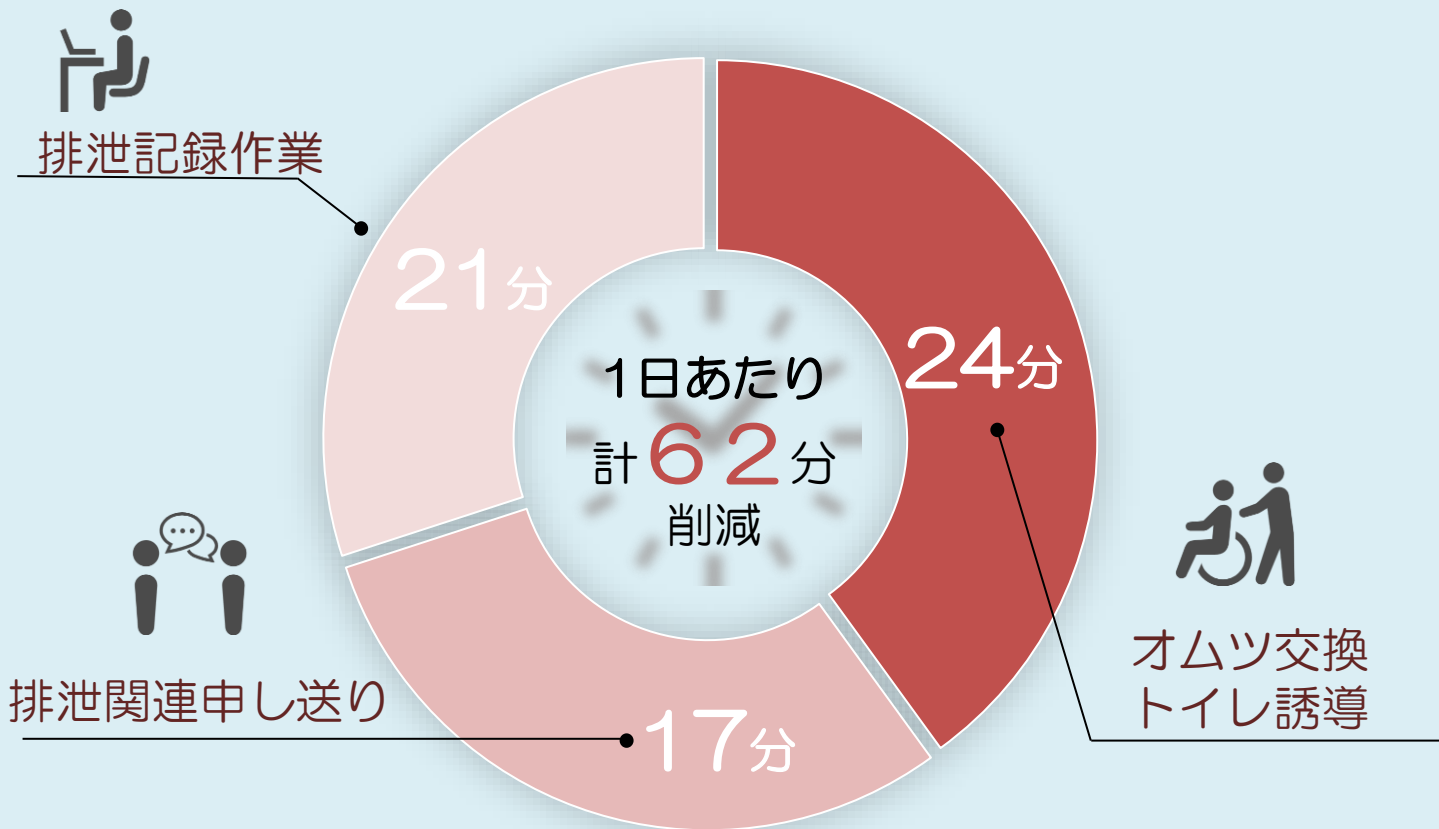


- 排便有無の**確実な確認**
- **適切なタイミング**で介入
- **記録漏れ減少**
- **無駄な下剤減少**
- 家族との**情報共有**

職員の生産性向上！
 利用者のQOL向上！

トイレセンサー「サニタリーシステム」導入事例

ショートステイユニット職員 排泄ケアに関わる職員の作業時間を削減



記録1.5H

食事介助 4.5H

排泄介助2.0H

レク・余暇0.5H

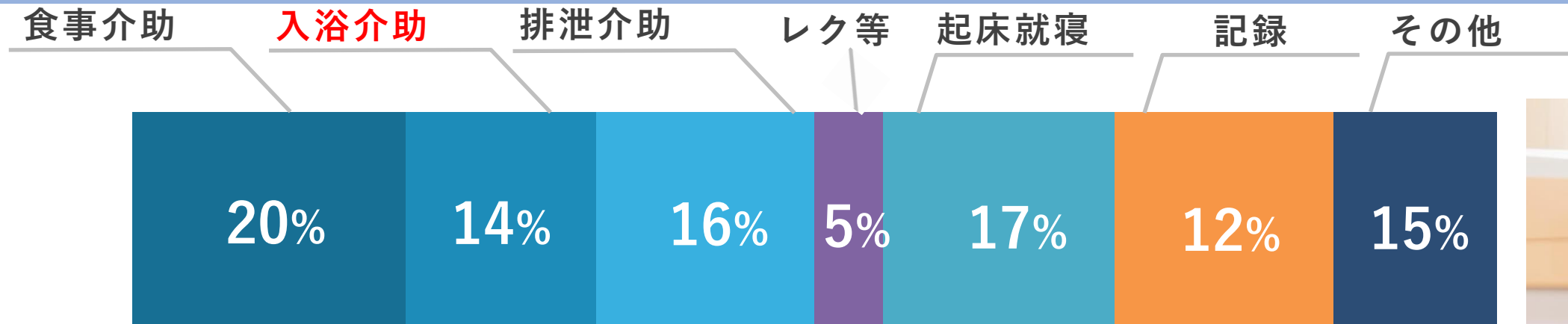
入浴介助3.0H

就寝・起床 3.0H

介護職員の業務内容(内訳)



ウルトラファインバブル「ピュアット」導入事例



入浴介助14%つまり、ここが改善できれば大きな効果が見込める



ピュアット導入前
入浴声掛け・誘導・脱衣
シャワー（かけ湯）
洗髪・洗身
湯船につかる
上がり湯
着衣・居室へ誘導



ピュアット導入後
入浴声掛け・誘導・脱衣
シャワー（かけ湯）
湯船につかりながら洗髪・洗身
上がり湯
着衣・居室へ誘導

機器を活用して効率化



-  手を抜く
-  時間に余裕をつくり、サービスを向上させる

ウルトラファインバブル「ピュアット」導入事例

入浴介助における問題は「擦り洗い」にあり！！

- ①拘縮した四肢の洗身にかかる時間
- ②ストレッチャー上で洗う転落リスク
- ③皮膚剥離のリスク
- ④高温多湿環境でのケア



これらを「ウルトラファインバブル」を活用して生産性と効率を向上させる

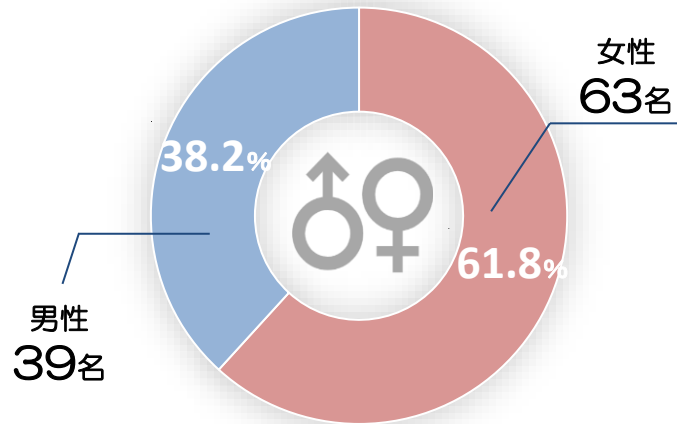
不安



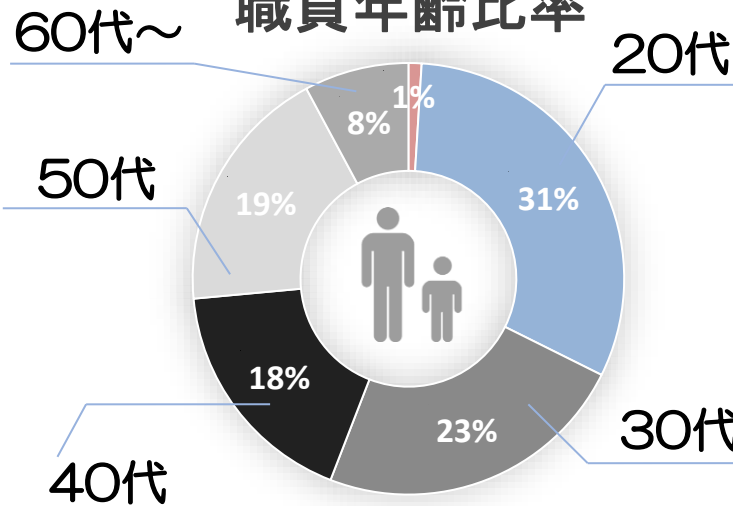
本当に洗わなくていいのか？シャンプーも不要？
にわかに信じられないという気持ちを抱えながらデモSTART

ウルトラファインバブル「ピュアット」導入事例

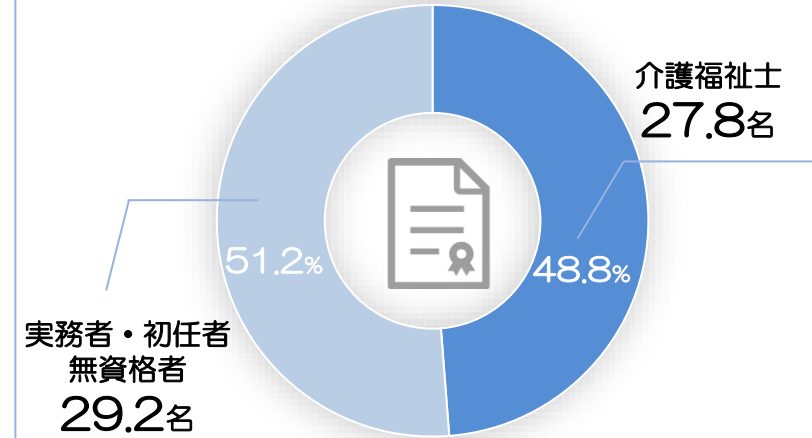
職員性別比率



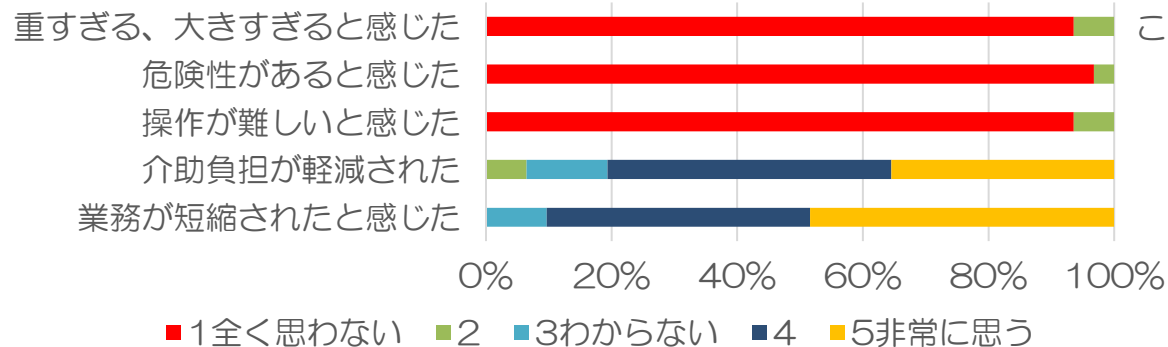
職員年齢比率



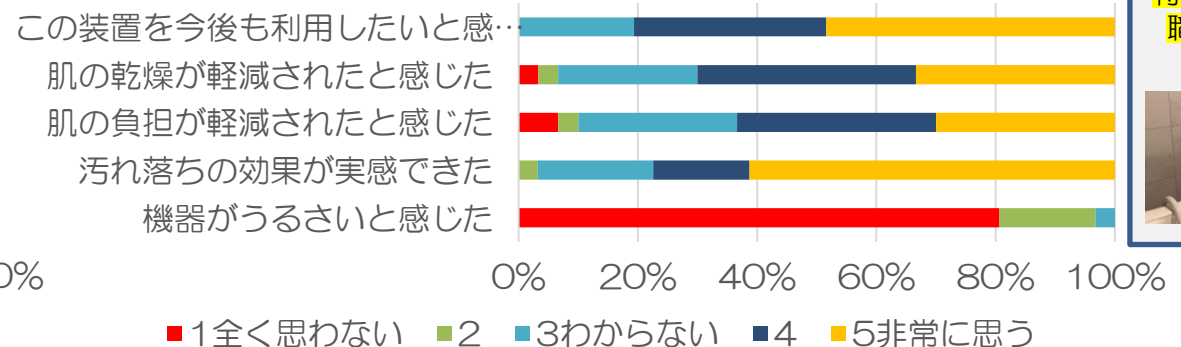
介護福祉士資格保有率



デモ実施後アンケート n=31



デモ実施後アンケート n=31



デモ様子

特に女性入居者・
職員の満足度が
高い



洗身・洗髪してから湯船につかる→湯船に浸かりながら洗身・洗髪一人あたり10分の時間短縮!!

移乗機器「ホバーマット」導入事例

移乗介助の課題

- 体格差による負担の増加
- 適切な体位保持の難しさ
- 福祉用具の操作の難易度
- 二人介助の必要性の増加
- 心理的負担の増加

これらの課題を踏まえ、福祉用具の導入や技術研修、職場環境改善が重要。

ユニット別女性職員割合



1Sユニット	2Sユニット	2Wユニット	3Sユニット	3Wユニット
3人/7人	4人/6人	4人/7人	2人/7人	6人/8人
1Eユニット	2Nユニット	2Eユニット	3Nユニット	3Eユニット
4人/5人	5人/7人	3人/6人	6人/7人	3人/7人

10ユニット中5ユニットで2人介助対象者が2名以上

■ホバーマット導入後の効果検証

目指すべきビジョン!!

身体的負担の軽減

- 福祉用具導入
- 安全かつ快適な業務

職場環境改善

- ICT/IOT導入
- 最新の技術や道具を学ぶ機会

安全・安楽

- 職員に身を委ねられる
- 移乗介助中の事故なし

自立性の尊重

- 自立支援
- 生活の質向上

- ご入居者の体重を10分の1に軽減する…………… (職員の身体的負担の軽減)
- 移乗時の剥離やルート抜去のリスクが軽減する…………… (ご入居者の身体的負担軽減)
- 日常的な体位交換の補助になる…………… (褥瘡予防)
- 必要な時に「5秒」で膨らむ…………… (簡易的な取り扱い)



👉 ホバーマットの使い方動画

youtubeでホバーマットの様々な活用法を動画でご覧いただけます。

今後の課題

ホバーマット自体の移動が困難なため、ご入居者も決め打ちで使用している。今後複数の対象者が出てきたときの有効的な使い方を模索する必要がある。

眠りconnectへのバージョンアップ

特養ではこれまで「眠りScan」を活用した数多くの好事例を展開してきました。今後はさらに「眠りScan」の活用方法をバージョンアップさせ、特養全体の品質向上に向けた取り組みを進めていく必要があると考えています。

■ 眠りscanと眠りconnectの違い

眠りconnect
目黒中央・弦巻
2拠点で先行して導入

容易に自施設のデータ分析が可能
なため、施設管理者のマネジメン
トに活用できる。

眠りscanの課題が

- ・リアルタイムフィードバックの欠如
- ・プライバシーとデータセキュリティの懸念
- ・包括的な分析が困難
- ・他センサーとの連携が不十分
- ・PCにデータが保存される



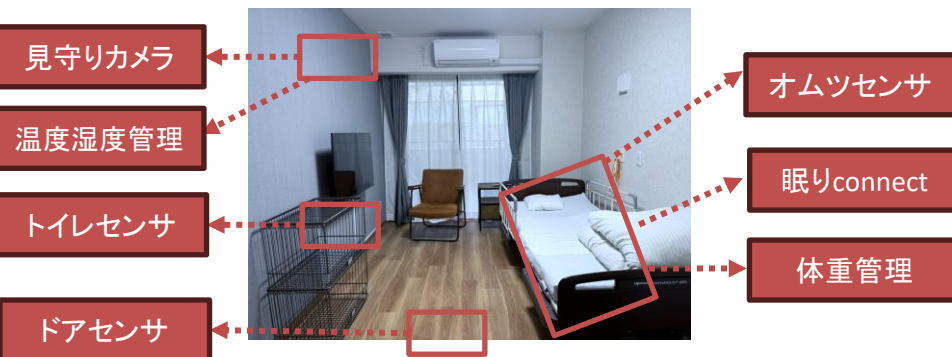
眠りconnectで解決された

- ・ダッシュボード機能追加でフロア毎、ユニット毎での分析が可能に。
 - ・連携できる機器が増加。（ドアセンサー、排泄機器、温度湿度、体重管理）
- データの一元化
- ・クラウド管理

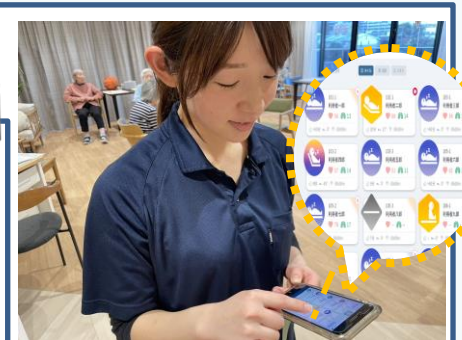


■ 眠りconnect活用事例

弦巻Smart Tech Room



- オムツセンサ→排泄の有無を検知
- トイレセンサ→トイレへの着座、排泄、立ち上りの検知
- 体重計（ベッド内蔵）→ベッド上の入居者の体重を検知
- ドアセンサ→ドアの開閉の検知
- 温湿度センサ→居室内の温湿度の検知



すべてを
一元管理

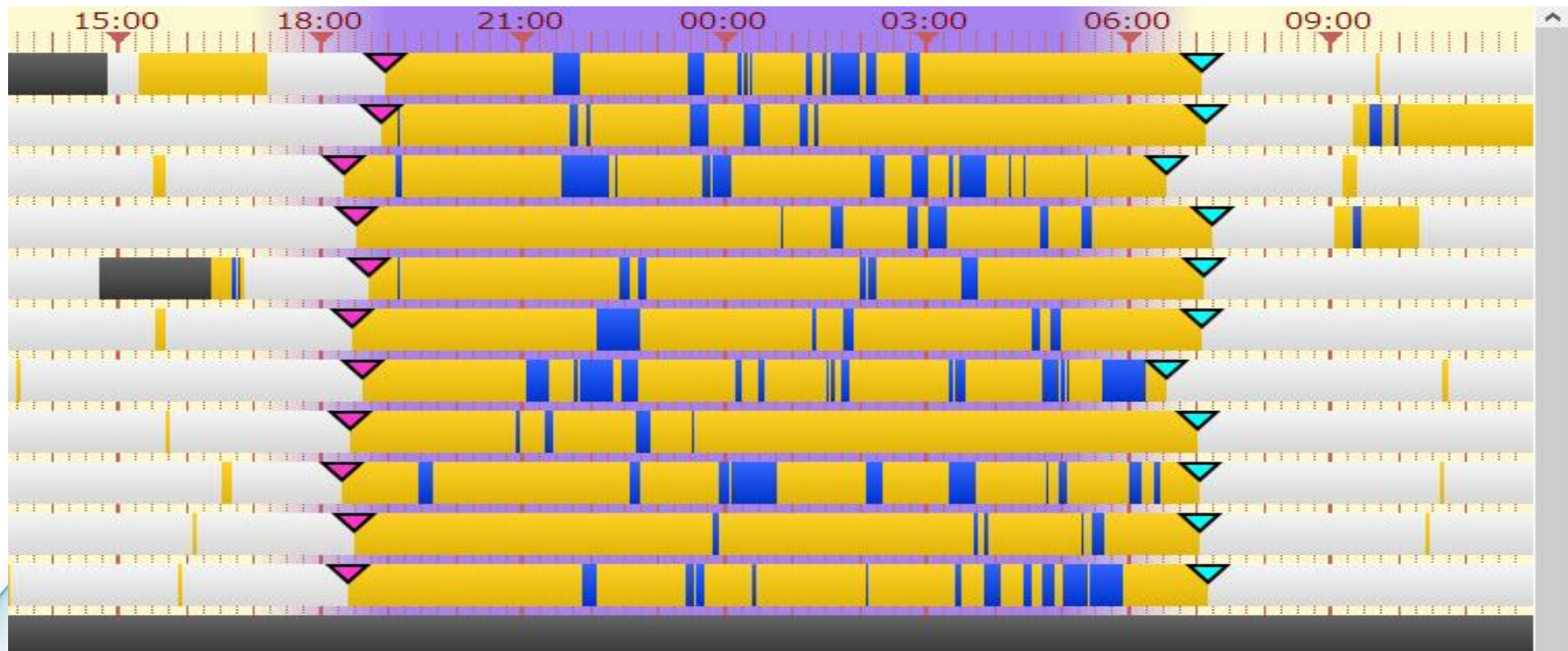
事例 見守り支援システム「眠りconnect」を活用した「睡眠改善への取り組み」

対象者：A様 男性





Before

データ採取期間：7月25日～8月2日



- 2時間毎の巡視では目は閉じられている事が多い。
- 職員は眠っていると判断。記録上でも「特変なく良眠」となっている。
- 日中も傾眠されていない。

 = 覚醒している
 = 眠っている

1日の平均睡眠時間が「0時間55分」と驚きのデータ

事例 見守り支援システム「眠りconnect」を活用した「睡眠改善への取り組み」

A様 対策 栄養素補給

睡眠指標 データ採取期間：7月25日～8月2日

睡眠時間	0時間55分	中途覚醒	231.1分	活動量	322.2COUNT/分
就床時間	11時51分	離床回数	0回	呼吸数	14.0回/分
睡眠潜時	318分	呼吸イベント指数	137.2回	心拍数	76.9回/分
睡眠効率	7%	周期性体動指数	320.6回		

圧倒的に高い！

★周期性体動指数とは、周期性四肢運動障害である可能性を推定できる指標

★研究所によると、15.0回以上が医療機関受診の目安

多職種で検討

介護&看護

睡眠中の周期的な付随運動で眠れていない？と仮説を立てる。

むずむず足症候群を合併しているケースが多く、**鉄分不足**から発症することが多い。

1日1本！

介護&看護&栄養士で連携し、市販の「鉄分ヨーグルト」を提供開始。

開始時期：8月末

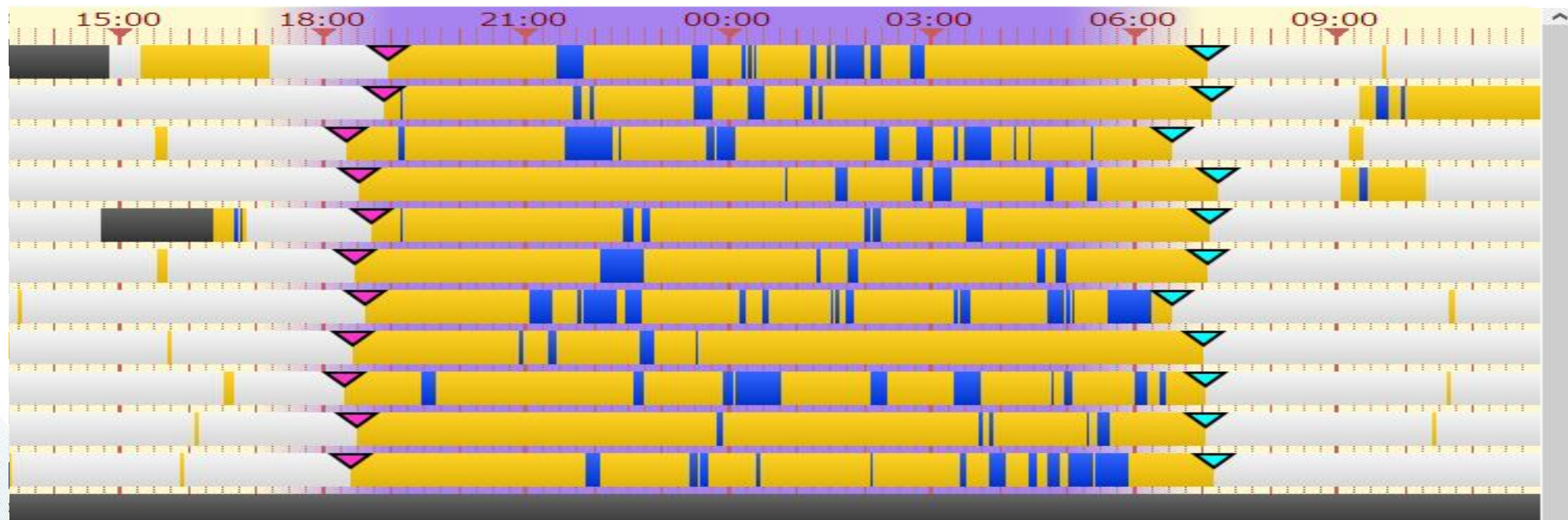


事例 見守り支援システム「眠りconnect」を活用した 「睡眠改善への取り組み」

Before

結果!!

データ採取期間：7月25日～8月2日



結果/効果

1日の平均睡眠時間が「**4時間03分**」まで改善!

- 夜間まとまった睡眠がとれるようになってきた。(青色が増えた)
- 熟睡している様子がわかる。確かに以前は熟睡していなかったと改めて実感する。
- 熟睡中はオムツ交換の希望も聞かれない。⇒**夜勤者の負担も軽減!**

地球規模で目立てツルマキ!!

介護職の存在感を高める

介護職プレゼンス向上活動戦略

介護職にスポットライトを

現場の好事例 介護職の輝く姿

- 介護職員の成功事例や功績を広く共有
- 動画作成
- 表彰、ピックアップ

プロモーション

- カッコよく魅力的プロモーション
- 動画作成、ホームページ、SNS発信
- 介護福祉の付加価値

プレゼンス向上

- イメージ向上
- 人材確保の戦略
- 社会貢献
- 信頼感の向上

モチベーション

- 承認欲求
- 自己成長の機会
- 認知度と評価の向上
- 仕事への意欲
- 職場満足度の向上

介護職員は**幸せ**にならないといけない

キラキラ輝く介護職たちを現場の中だけに閉じ込めておくことはせず、外に出して、プロモーションして、介護福祉のプレゼンスを向上させます。介護の現場で働く職員一人ひとりの個性や才能を広く認識するだけでなく、介護職員の仕事に新しい視点をもたらし、その価値を再評価するきっかけ作りを戦略的に実践していきます。

魅力×やりがい×誇り 付加価値Promotion戦略



藤巻施設長、衝撃の

🐱 8.5万再生越え!!

YouTube デビュー!!



🐱 介護職の魅力を自ら発信





HOUYUKAI

Action by Glocalization

Thank you

ご清聴ありがとうございました

特別養護老人ホーム弦巻の家 藤巻佳祐